



進学先

筑波大学

人間学群

井端 加奈さん

向陽高校
ソフトテニス部

インタビュー

岡 哲司
(AC ターミナル校カウンセリングスタッフ)

志望校を決めた時期やきっかけは？

井 端：決めたのは高2の夏か秋です。高1が終わった春休みに一回志望校を決めようっていうタイミングがあって。それまではなんとなく東北大学の農学部にしようかなって考えていたんですけど、いざ、決めるってなったら、何か違うなって感じてしまって。それがなんでなんだろうって考えたら、そもそも学部が違うのかもしれないって思うようになりました。それでいろいろ調べ始めて行きついた感じですよ。やりたいことが明確に決まっているわけではないし、でもなんとなく学問分野的には教育とか心理とかってなった時に、全部やりたかったから。全部できるところってけっこう少なかったの。

文系を目指したきっかけや、変更することへの不安はありましたか。

井 端：文系に興味をもったのは、いろんなことにチャレンジして理系じゃないことを学ぶようになってからです。環境科学科では理系のことをメインで勉強するので、基本、そっちに興味はちゃんと向いていたんです。理系のことを学んで、理系に興味があって。でも、違うことを学んだ時に、“あれ？文系も興味あるかも”って感じて。で、どっちかなって改めて考えたら文系の方が興味が強かった。でもやっぱり不安はあって。今、理系で学んでいるなら理系の進路の方がいいかなとは思いました。それでも、理系で大学生活をイメージしたらワクワクまで行かなかったの。面白そうとは思うけどそこ止まりな感じで、突き詰めたいとまで思わないかなって。文系と決めて、高3になってからは、逆に楽になりました。教科として理科とかが無くなったし、受験で必要

な理科は勉強しなくてもいいくらいに仕上がっていたから。これまでテスト期間も数学や理科ばかりやっていたのが、それをしなくてよかった分、あいた時間で受験勉強を進められるようになりました。

高1から自習室でもがんばっていた、そのモチベーションは？

井 端：部活の先輩が毎日アカデミーの自習室に行っていると言っていたので、じゃあ自分も行こうと思って。先輩が頑張っているからっていうのがモチベーションになってました。高1・高2は塾がある日に自習もして。夏休みとかは…塾が涼しいから。暑い中、部活に行ったら家に帰ったらもうしんどいから勉強はできないけど、アカデミーに寄ったら一旦涼めるし、勉強しかすることがないから絶対に勉強するし。だから部活の前後で来るみたいにしていました。

「Stanford e-Wakayama」(高1で受講)について教えてください。

※Stanford e-Wakayama

県教育委員会がスタンフォード大学と連携して実施する和歌山県の高校生向け同時双方向型オンライン遠隔講座。スタンフォード大学専任講師や現地起業家等による講義、及びディスカッションやプレゼンテーションなどを行う。オールイングリッシュによる1回90分の講座を10回程度受講後、受講者一人一人が「英語によるプレゼンテーション」を行う。

井 端：2週間に1回、ネイティブの人がZoomで授業をしてくれました。それぞれの回で違う講師

の人がそれぞれのテーマで講義をしてくれる
んですけど、最初は正直2割3割くらいしか分から
なかったです。授業が終わったら事後課題
があるのと、次の回に向けての予習課題もあり
ました。それが1セットで、それを半年。12
月くらいからは最終のプレゼンに向けての準
備もありました。テーマを決めて、英訳、スラ
イド、原稿などを送って、添削してもらって。
講義を半年受講していたら、自然と英語力が
身についたと思います。最後の2回くらいで
急にめっちゃ聞き取れるようになりました。
それまでは何をメモ取ればいいか分からない
状況だったのが、ノートもとれて。分かってき
たっていう時に終わってしまいました(笑)

チャレンジしようと思ったきっかけは？

井 端： 自分は中学生の時は消極的な方だったんです。学校の面談とかでも話の最後の方に「もうちょっと積極的に」って言われるような。でも中学の先生はいろいろ助言をくれたので、言われてそれを経験してちょっとずつ自分の力になっていくっていう実感がありました。だから「やってみた方がいいんだな」って思うようになったんです。で、中学卒業の時に部活の先生に「高校入ったらもっと挑戦してみたら」って言われていたので、何かやってみようと思って。そんな時にたまたまStanford e-Wakayamaの応募があったので、やってみようって。その時は、軽い気持ちでした。選考も通らないと思っていたくらいで。やろうと思ったこと自体が大事って思いながらとりあえず応募したら通りました(笑)。選考は、志望理由書、講座のテーマについてのレポート、英語の面接でした。

次に参加した「アジア・オセアニア 高校生フォーラム」については？

※県内外の高校生とアジア・オセアニア地域にある17の国や地域の高校生が、3泊4日の英語合宿で、研究課題について議論を深める。

井 端： スタンフォードが終わったくらいに準備を始めました。質疑応答まで入れて15分の持ち時間で英語でプレゼンするので、そのための研究テーマを決めて。事前準備を6月中旬くらいまでに全部仕上げて提出する必要があったんですけど、自分は学校でアンケートも取らなかったなのでその準備を春休み中に進めて、4月5月くらいでアンケートを取って、それをまとめて6月中旬に提出するというスケジュールで。で、7月末に実際に参加して発表しました。テーマは「性の多様性と学校教育」みたいな感じで。スタンフォードでは、自分の中の目的は「挑戦しよう」で、その目的は達成したけど、あまり英語がうまくできなかった、頑張れなかったみたいなのが残っていて。じゃあ次はそこをもっと頑張ってみよう、次のステップは対面で頑張ってみようって思ってチャレンジしました。

岡：そういう自分でチャレンジしてきたことが、入試で生きてきたよね。

総合型選抜で勝負するって考えたのはいつ頃？

井 端： けっこう早い段階から。部活もやっているし、いろいろ挑戦しているし、評定もとっているから、できたらいいなくらいに思っていました。でも実際は倍率も高いしなかなか厳しいか

ら、どうしよくなっている迷いはありました。だから、自分の中で、ある程度共テの点数が取れそうになったら挑戦したいなって決めました。いざ推薦となると秋に準備をしないといけないので、その時に推薦のことに時間を割いていたら共テの勉強がしづらくなるので。そうなった時にメンタル的にもきつくなって思って。だから共テがあまりにも低くなる見込みなら、推薦はやめておこうって思っていました。

岡：「共テで届かないかもしれないから1回でもチャンス増やしておこう」という思考の受験生が多い中で、そういう戦略ってすごいね。準備は大変でしたか？

井 端： 志望理由書を書くのが一番大変だったと思います。初めに書いたときに、何人かにみてもらったら「いいんじゃない」って言われて。でも自分は直してもらうつもりだったから納得がいってなかったんです。で、進路指導の先生に見せたら「ここが分からない」「なんでこうした？」みたいなのが返ってきたので、それをやりなおして、また提出してみたいなことを5回くらい繰り返していたら、結局期日ギリギリになりました。



Academy Campusに入ったきっかけや、授業の印象などは？

井端：小6の夏期講習くらいからGES(小学生部:県立中学受験専門クラス)に入って、中学も続けて(向陽中学完全専門クラス)、そのままアカデミーに。高校に入った時点で、塾を続けるかは迷ったんですけど、春期講習でクラスライブ授業の数学を受けて、続けることを決めました。ハイレベル数学はめちゃくちゃ分かりやすかった。でもめっちゃ速いから、いつか見捨てられるんじゃないかって思いながら受けていました(笑)。で、高2の秋には、受験に数Ⅲがいらないって決まったので、ハイレベル数学はやめて自分で頑張ろうって決めました。でも、自分で頑張るのも継続が難しいかと思って、もともと授業のあった時間には自習室に来ようって決めて、その時間に数学をやっていました。

英語は、高2の秋からハイレベル英語。高2の終わりの3月頃からサテライン講座で富田先生の授業。スタンフォードとかでやっていたことで、自分が変な英語力のつけ方をしていたところがあって。文法もいまいち分かっていないのに、ある程度雰囲気読めちゃうみたいな状態で。それをどうしたらいいんだろうっていうのはずっとあったけど、一から文法をやるのもどうなんだろうっていうのを抱えていたんですけど、サテラインで富田先生の授業を受けた時に、自分にハマりました。あと、危機感も持てた。

で、高3の夏からはクラスライブ授業で吉田先生の難関大二次対策英語を受けていました。夏休みの勉強はサテライン講座を受けていることが多くて、自分だけではモチベが上がりなかったり、集中できないこともあった

なんですけど、その中で週1で対面で授業を受ける機会っていうのは、めちゃくちゃ良くて。やっぱり対面の方が集中できるし疲れにくい。あと、"この時期はこんな勉強をした方がいい"みたいな話も授業でしてくれるからすごく良かったと思います。

アカデミーでは、岡先生も不要な授業を受けるようには絶対に言わないし、これは受けなくていい、これは必要とかって言ってくれるので良かったです。自習室も使えるし。

後輩にアドバイスやメッセージをお願いします。

井 端：部活をやっている人は、部活と勉強を両方頑張るっていうのをずっと続けた方がいいと思う。後々、推薦を受けるとか、共通の勉強と二次の勉強とか、やらないといけなないとこが2つ3つ重なってきたときにちゃんと分けてできるっていう力がついているから。部活と勉強との両立はしんどいけど、そのしんどいことを頑張れているんだから、その分、力がついていると思います。あとは、推薦で受ける人も受けない人も、部活をやっている人もやっていない人も絶対どこかでしんどいタイミングがあって。それはそれぞれのタイミングで絶対あるから、あまり周りとは比べずぐずに頑張ってください。

編集後記 ～インタビューを終えて～



井端さんはソフトテニス部に所属しながらも、高1の頃から頻繁に自習室に通い、高3になってからはほぼ毎日、日曜自習室も上手く活用しながら受験勉強を頑張りました。また、環境科学科でありながら文学学部を目指し、受験勉強のネックになる可能性のある地理探究も高2の夏からサテラインで積み上げていきました。上手くACの機能を活用してくれたと思います。

またインタビューでもあったように、高校時代に様々な経験を積みました。そしてその中で自身が大学で学びたい分野に出会い、それができる大学を探し、筑波大学を見つけ、総合型選抜で高校時代の研究成果が活きる、という形でした。ポジティブに色んなことにチャレンジしようとしたことが、最高の結果に結びついたと思います。

目の前のことを丁寧にコツコツと積み上げることができ、継続力と意志の強い生徒でした。大学でも様々な経験を通じて、大きく成長してほしいと願っています。期待しています！頑張ってください！

ACターミナル校カウンセリングスタッフ 岡 哲司